

(別添)

世界の人びとのための JICA 基金活用事業・業務完了報告書

1. 業務の概要：	
(1) 事業名	ネパール 2015 年ネパール大地震 被災地の子どもたちのための復興コミュニティづくりへの支援活動
(2) 実施団体名	NGO ネパール『虹の家』
(3) 実施期間	2018 年 6 月 11 日～2019 年 1 月 31 日
(4) 実施国	ネパール連邦民主共和国
(5) 活動地域	カトマンズ郡 シンドパルチョーク郡
(6) 活動概要	<p>①活動の背景：</p> <p>2015 年の大地震後の 9 月、カトマンズ郡サヌタリ村を訪問。村は 41 棟中 40 棟の家屋が全壊し、親を亡くした子どもが 9 名。子どもたちが通うオクレニ小中高校では生徒 550 名の内、親を亡くした子どもが 50 名という状況であったためそれぞれへの支援を決定。もう一つの支援先、シンドパルチョーク郡シリバルカリヤン小学校は校舎が全壊。幼稚園児、児童 70 名在籍。</p> <p>それぞれの状況を鑑み、当団体メンバーの「被災地の子どもたちの力になりたい」という思いを原点に一人でも多くの子どもが学校へ通えるための教育支援を軸とし、被災地の人々が必要とする支援を顔と顔が見える関係の中で行うこととした。</p> <p>支援対象のサヌタリ村住民は「子どもたちが安心して暮らし、学校へ通い、そして、震災前よりもクリーンな村にしたい」という目標を設定。当団体と共に復興コミュニティづくり「サヌタリプロジェクト」を策定。具体的な活動として、「絵本とママ」「女性ソーイング」「生活改善（水・環境・健康）」を重点的に進めてきた。とりわけ、女性たちが自立できる機会と自身が学べる場が欲しいという希望があった。</p> <p>被災校 2 つについての支援活動においては学校長、教員、地域住民との協議を踏まえ、最優先事項として親を亡くした子どもたちの通学費用の一部負担、図書室の整備、学習材提供への協力を行ってきた。</p> <p>②活動の目標：</p> <p>「サヌタリ村プロジェクト」には「子どもたちが安心して暮らせる居場所を造りたい」という村人たちの願いを反映し、その実現のためには女性たちが「子どもの教育」や「健康や衛生」への関心を高め積極的に関わられる活動を取り入れる。女性が復興コミュニティづくりや学校、地域への関わりを持ち、子どもたちのための環境づくりを共に構築する。</p> <p>「スクールプロジェクト」では学習環境づくりとして子どもたちが絵本を楽しめる空間として図書室の新設、絵本活用のアクティビティの提供を行う。さらに、教員からの希望が強い学校給食提供への準備を始める。教育支援は、親を亡くした子どもたちを対象に継続的に支援できるシステムを学校関係者、保護者、ならびに地域関係者に協力を求め作成する。</p>

2. 業務実施結果：

(1) 実施した内容：復興コミュニティづくり 「サヌタリ村プロジェクト」

【実施内容①】 「ママと Home education」 ～ 歯科 ドクターキャンプ ～

母親が自ら、子どもたちの健康を守るための生活習慣向上を目的としている。発育測定（身長と体重）を実施し「Health data」に記録し、継続観察を行っている。

5月に歯の模型を使っての正しい歯の磨き方、紙芝居を使っての口の中食べかす（細菌）が虫歯の原因などを説明し、乳歯を大切にすることで健康な大人の歯になることを伝え、その後、ドクターによる検診を行った結果、子ども35名のうち、虫歯がない健康な歯を持つ子8名、要治療が27名であった。

10月、JICA基金活用事業により上記検診の要治療者と当日受診者計37名が虫歯の治療や抜歯等を行った。

【実施内容②】 「絵本とママプロジェクト」 ～ クルクル絵本 ～

子どもたちに絵本の世界を楽しんでほしい、というプロジェクトである。サヌタリ村には日本の絵本を提供し、訪問時には「絵本の読みきかせ」「エプロンシアター」「げきあそび」「つくってあそぼ～お面づくり～」などを行ってきた。当初、子どもたちを対象にしたこの取り組みを家庭へ広げ、絵本を届け、家族と一緒に絵本を読むことを企画（『クルクル絵本』）。「子ども土曜クラブ」を活用し、図書館方式で本の貸し出し「借りる約束、図書カードの書き方、返す約束」などを子どもたちに理解させ、土曜日は1冊から～2冊を家庭へ持ち帰るようにしている。

10月には、JICA基金活用事業からネパール民話、英語訳の本などのジャンルを広げた本33冊を届けた。

【実施内容③】 「女性ソーイング」 ～ スクールシャツ制作 プレゼント ～

震災後、村の女性たちは「サッチャム サムハ ヨジャナ =自立した女性をめざす」クラブを設立。その後、『虹の家』からミシン2台を提供。指導者を週1回派遣し、ミシン技術習得の支援が始まった。

8月、ジョルパティにカウンターパート「International Sewa Society」事務所兼女性トレーニング場が完成。JICA基金活用事業によりミシン2台を納入し、本格的なトレーニングが始まっている。（参加女性は26名）

初めての作品は、オクレニ小中高校の児童生徒用のスクールシャツを制作し、親を亡くした子どもたちへJICA基金活用事業としてプレゼントし、保護者の教育費の負担軽減につながっている。（春 51名 秋 55名支給）

【実施内容④】 「子ども土曜クラブ」 ～ 学びの場 ～

常時活動は週1回の土曜日に大学生のキラン先生が指導する。幼稚園児から中学校の子どもたち21名が参加。毎土曜日に参加している子は17名。キラン先生一人では手が足りず大人たちも教えている。村には集会所がなく、リーダー宅の1階を借りて実施。キラン先生からは「主に、学校での授業内容の指導や英語教育、『クルクル絵本』にも力を入れている。今、ネパールの公立学校のシステムも変わってきている。子どもたちが勉強を理解し、卒業できることが目標です。個々のカルテを作成中です」と、報告があった。

： 被災校への支援活動「スクールプロジェクト」

【実施内容⑤】 オクレニ小中高校 「図書室づくり」

オクレニ小中高校では、震災後 2 年間は図書室他、窓ガラスが破損したままの教室で授業を行っていた。安心して学べる学習環境づくりへの支援を開始。2018 年秋には、新校舎 2 棟が完成。そのうちの 1 教室（60㎡）を図書室として使用できるようになり、幼児対象の学習材や小学校低学年のための絵本や手作り教材を届け「子どもたちにとって優しい空間づくり」が本格的に始まった。JICA 基金活用事業として図書室の床マット設置、書架 3 つ、そして、ネパール語の絵本等を提供した。書架や教室前の靴箱はサヌタリ村メンバーの手作りである。またサヌタリ村から 2 名の女性（震災で寡婦となり、収入支援）が毎週金曜日に学校へ出向き、室内清掃、本の整理、そして、花壇の植栽などを手伝う。このように、図書室運営に地域の人材が入り、施設管理や子どもたちと関わるなど学校運営に新しい試みを加えている。

【実施内容⑥】 シリバルカリヤン小 「給食実施」

シリバルカリヤン小学校は、震災被害が大きかったシンドパルチョーク県の山深い所に位置する幼児クラス 20 名と小学校 3 年生まで 50 人が在籍する分校である。校舎 6 教室すべてが全壊したが政府の支援が届かず、教室は自力再建となった。2017 年春『虹の家』の支援で図書室が完成。新しい学習の場となった。

校長先生はじめ女性教員から「空腹のため授業中に泣き出す子もいる」と、給食実施の要望が出された。子どもたちが暮らすフンドゥルン村は一日 200 円未満、農業中心の自給自足が恒久的に続いている家がほとんどである。『虹の家』は「健康な体と栄養面の維持」を最優先事項とし「給食支援事業」を決定。5 月訪問時には給食試食会を行い、同時に「手洗いとうがい」「食べることの大切さ」、給食後の「歯磨き指導」を実施した。今後は、健康、衛生面での指導を取り入れていくことを校長や教員に依頼した。その後、学校長から「6 月からは金曜日以外の 5 日間、毎日給食を実施できています。地域からは、食材のジャガイモ、豆の提供、その他の経費は、地域コミュニティと『虹の家』からの支援金で賄っています」と、報告があった。

図書室には JICA 基金活用事業により購入したネパールの民話や絵本などの本を納入。今後も計画的に本を増やしていく予定である。『虹の家』訪問時には学習カルタや手作りおもちゃなどの学習教材も提供した。

教員からは、授業の進め方や教材など、日本の方法を教えてほしいという要望が出されている。

【実施内容⑦】 教育支援 ～母親教室 開催～

オクレニ小中高には地震で親を亡くした生徒が 50 人いる。特に、働き手が亡くなった家庭では子どもたちを学校へ通わせることが難しくなったり怠学傾向の児童が増えたりしていた。そのために教員たちは、給料の一部を出し合い通学を促してきた。その状況を改善するために『虹の家』は親を亡くした子どもたちへの教育費支援を 3 年間継続してきている。

2018 年は JICA 基金活用事業として、一人当たり 4000 円×25 名の通学費の支給により、教育費支援を行うことができた。教育費支援を受ける家庭の母親を対象に「母親学級」を開催。新設された図書室で JICA 基金活用事業の意義やスクールシャツプレゼントについての説明を行った。参加した地域の関係者、同窓会会長からも保護者に向け、地域の子どもたちすべてが学校教育を受けられるようなシステムと組織づくりに向けての協力依頼があった。

(2) 実施成果

復興コミュニティづくり

「サヌタリ村プロジェクト」

震災後、親を亡くした子どもたちの教育支援を目的に策定したこのプロジェクトは3年間の活動を積み上げてきた。その結果「子どもが安心して暮らせるコミュニティづくり」の方向性が見えてきたといえる。その原動力になったのは新しいコミュニティづくりのために結成された「タマンクラブ」と「サッチャムクラブ」の子どもたちへの思いである。

今、村には「家族と一緒に絵本を読む、女性たちがスクールシャツを制作しプレゼントする、図書室の書架をお父さんたちが大工仕事で作る」など、新しい活動の風が送り込まれている。村の人たちは、子どもたちの居場所づくり、クリーンな村づくりなどの目標をもち、それを実現するプロセスの中で新しい村づくりの手応えを味わっている。今後、「サヌタリ村プロジェクト」がモデルケースとして地域に広がることを期待したい。

プロジェクト名	成 果
① ママと Home education ～ 歯と健康 ～	<ul style="list-style-type: none">・年2回の発育測定（身長と体重の計測）が、子どもの健康と発育のひとつのバロメーターであることを伝え、月1回の体重計測を実施する予定である。・歯科検診と治療により、乳歯の健康について考え「歯磨き」を子どもと一緒に家族みんなで行う習慣が定着し始めている。・歯の健康と食生活との関連など、次の課題も見つけることができた。
② 絵本とママ ～クルクル絵本～	<ul style="list-style-type: none">・毎週土曜日に新しい絵本を子どもが持ち帰り、家族に読んで聞かせるなど読書の楽しみ方が広がった。（図書カード本10冊×3枚終了の子もいる）・ネパール語の絵本が追加され民話に興味を持っている子もいる。キラン先生からは中高生のための英語の本や興味関心が持てる本も必要との要望。
③ 女性ソーイング ～スクールシャツ プレゼント～	<ul style="list-style-type: none">・スクールシャツの縫製技術の向上と共に分業作業を取り入れた効率的な作業ができています。対価として受け取る金額は女性たちの収入となっている。・ニットソックスは制作、検品、タグをつけ納品の流れが確立。品物は日本でのイベント販売や北海道安平町へ被災地支援として届けた。・女性たちには週2回～3回、バスに乗ってトレーニング場へ通勤するという新しいライフスタイルが生まれた。
④ 子ども土曜クラブ 土曜日の学習 ～「Park へ行こう」～	<ul style="list-style-type: none">・学習状況としては「ほとんどの子がおおむね学校の授業内容を理解し、英語が得意な子が増えている」と、キラン先生から成果報告があった。・震災直後からの3年越しの夢が叶い、村の人たち総勢55名の参加があった。・バスの窓からゴカルナ、タメルなど町の様子を見るという初めての体験と「Park」のアトラクションやカラフルな乗り物に子どもたちは大満足。・プールでの水泳に子どもたちは大興奮。「心の中に思い出ができた」と一言。・事前準備も万端。当日、腕に青いリボンをつけグループ行動にもトライした。

「 スクールプロジェクト」

『虹の家』が支援対象校を訪問する時には、校長、教員とのミーティングを行い、児童の通学、学習環境と
りわけ、図書室運営についての状況や情報を共有することに努め、進行中の支援プロジェクトの課題などにつ
いては、次の企画に反映させるために計画書とふりかえり（感想、要望事項）の記入を依頼している。

今後の事業としては最優先事項として、①通学（教育費支援）②学習環境（図書室づくり）③給食実施 の
3つを「スクールプロジェクト」の軸としていく。2018年はJICA基金活用事業の成果として学習環境全般が
改善され、子どもたちが楽しく学ぶ環境が整えられた。さらに、「母親教室」開催により、学校長、地域関係者
や保護者からの意見や要望を聞く機会にもなった。今後、「スクールプロジェクト」を進めるにあたっての必要
な支援事業や『虹の家』が担う役割などの方向性も見えてきた。

プロジェクト名	成 果
⑤ オクレニ小中高校 図書室づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室は子どもたちの人気の場所となっています。 ・本を読んでいると幸せな気持ちになれるそうです。 ・中高生用の本が必要です。自分で、本から学ぶようになってほしいです。 ・図書室の使い方や上手な利用方法、日本ではどのようにしているのですか。 (教員へのアンケートと報告) <p>交流授業</p> <p>テーマ 「ネパールの子どもたちの SDGs」 (※ SDGs 2015年国連が定めた持続可能な開発目標)</p> <p>目 的 国連の開発目標についてカード1から17を知る。 地球市民として世界のことに関心を持つことができる。</p> <p>対 象 中高生 120名参加 対話型学習</p> <p>学習材 SDGs カード（ネパール語訳付）</p> <p>成 果 ・「ジェンダー平等を実現しよう」「パートナーシップで目標を達成 しよう」について生徒たちの考えや意見を直接聞くことができた。</p>
⑥ シリバルカリヤン 小学校 図書室整備：給食	<ul style="list-style-type: none"> ・金曜日以外の5日間、毎日給食を実施しています。 ・コミュニティから食材と支援金の協力が得られました。 ・2時間かけて登校する子どもたちも元気いっぱい学習に参加しています。 ・食生活の向上につながり、手洗いや歯磨きなどの習慣づけもできます。 ・給食メニューや食材など、これから工夫していきたいです。(教員からの報告)
⑦ 教育支援	<ul style="list-style-type: none"> ・支援受給者の保護者を対象に「母親教室」を開催。JICA基金活用事業による教育費支援の意義とスクールシャツ提供について説明。その後、保護者による受給申し込みと受領手続きが完了。 ・教育費支援の継続については学校長、地域代表と協議し、地域や日本からの資金協力の可能性を見極め、奨学金制度についても検討することとなった。

参考資料：オクレニ小中高校 < 図書室使用状況及びアンケート より >

Library Class a Questionnaire

Could you fill out questionnaires please

1. Name (Shree Okhreni Secondary School)

2. In charge of your class (Rabita Upreti)

3. Your teaching experience ()

4. A library class schedule (make out a schedule) fill in grade and the member of children

	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	25	29	30	28	29	29
2	36	34	36	35	35	35
3	29	28	29	29	29	27
4	32	31	30	33	32	31
5	26	25	22	26	25	25

How many times have you used in a week? (3 times)

Make a list of books
How many picture books are there in library
Library (all book) your classroom ()

アンケート質問事項

1. 名前
2. 受け持ちクラス
3. 教師歴は何年ですか
4. 図書室使用表
(※ 22・25～29 ナーサリークラス と 小学校低学年
30～33 小学校高学年
34～36 中学校 高校)
5. あなたのクラスは、週に何回使用しますか
6. 図書室にある本のリストはありますか
7. 必要な本があれば記入してください
8. 図書室ができて、子どもたちに変化はありましたか
9. フリー

9. フリー

8. Description (Nepalese or English)

Q What do you think the library was popular with children?
What kind of books children like?
How do you think children life were changed since the library opened?

The library was popular with children because student happy to read book in library.

Q What do you want to do that is a method of instruction of library?

student self method.

図書室は子どもたちの人気の場所となっています。なぜなら、生徒たちは本があって、読むことができることが幸せな気持ちになれるから。

生徒たちが自分で本から学ぶ方法を知りたいです

(3) 得られた教訓など：

① 被災地支援活動

～ 新しいコミュニティづくりの可能性 ～

大地震で住居は壊れ無くしたが、サヌタリ村の人と人のつながりという昔からの財産は受け継がれている。「子どもが育ち、子どもを包むのは私たち大人」という村の人びとの思いと行動力に支えられて事業は進み、『虹の家』との信頼関係も育ちつつある。事業計画の際は、子どもたちを真ん中に置き、必要なことを考えていく中で構想を練っていく。

② 被災地の最良の支援は「学校教育」 ～ スクールプロジェクトの意義 と 女性の役割 ～

被災した子どもたちが公平に支援を受けることができる場が“学校”であり“学校教育プログラム”と考えている。子どもたちに質の高い教育を受けさせたいという親の願いを実現できる事業を進める。

女性の自立支援、子どもの教育、復興生活改善に取り組む中で、ネパールの社会が持つ課題が見え隠れし、時には高いハードルとなっている。その課題解決のための事業では、そのプロセスを現地の人びとと共有し、着実に進められることに留意する。

③ カウンターパート

～ 現地の人びととのつながりを最大限に生かすことが力に ～

カウンターパート「International Sewa Society」メンバーは、『虹の家』の活動目的と現地での推進役として活躍している。また、『虹の家』のメンバーが、すべてボランティアで活動していることも理解してくれている。現地合同ミーティングには常に30名を超す人が参加し相互理解に努めている。

現地活動はカウンターパートメンバーに頼るところが大きい。「有言実行」、共に活動する人としての互いの信頼関係は強くなっている。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針：

「サヌタリ村プロジェクト」

- ・親を亡くした子どもや寡婦となった女性の生活立て直しは困難な状況である。解決のために生活基幹である「農業」への支援事業展開により、仕事と収入を得て生活の安定化を図かる。
- ・母親が家庭でできる子どもたちへの教育として「ママと Home education」「絵本とママ」の取り組みを行い、手洗いや歯磨きの習慣や家庭読書も根付き始めている。サヌタリ村の女性たちが、子どもたちが通うオクレニ小中高校の「母親教室」で活動の実際を紹介するなど、地域の女性へ発信していく予定。
- ・両親を亡くし、おじさん家族と暮らすB君の表情に大きな変化が見られる。思春期に入り、また、高校進学という将来が見えない不安な気持ちを持っていることを感じた。親を亡くした9人の子どもたちのための高校進学までの教育支援費確保は『虹の家』が里親システムを導入する予定である。親を亡くした子どもたちへ心理面のサポートは、住民が見守り、継続して様子を見ることを依頼。

「スクールプロジェクト」

- ・2018年ネパール教育省からの指針によると、就学前のナーサリー教育や栄養改善の視点から「幼児教育推進」や「給食実施」の具体的な取り組みが必要となっている。現時点では支援対象校の実情と教員の要望を取り入れ、学校長裁量により教育プログラムへの提案と実践を行っている。
- ・2019年は支援対象校で「簡易給食実施」「健康プログラム」など子どもの成長に必要なプログラムを策定。
- ・オクレニ小中高では図書室の有効利用のため読書用兼作業用机を配置。図書室を工作や劇遊びなど多様なアクティビティも楽しめる場にしていく。また、中高生向きの本や自然科学など蔵書を増やす。
- ・「母親教室」を開き、「お母さんの絵本教室」、授業参観などの機会を設定して学校教育への関心を高める。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード

〈サヌタリ村プロジェクト〉

Park へ行こう

「 Whoopy Park 」へ行ってきました！！



バスの中はお祭り騒ぎ

キラン先生と計画を立て遊園地ではグループ行動

水しぶきがまぶしい

ビッグイベント「遊園地へ行こう」プログラムは参加者子ども 32 名、大人 20 名が貸し切りバスに乗り、カトマンズ郊外にある Whoopy Park へ向かいました。バス旅行、ランチ、プールでの水遊び何もかもが初めてのことに子どもたちからはたくさんの笑顔が見られ、歓声が上がりました。

3 年前の震災直後、「何がしたいですか」との間に、サンジャナは「Park へ行きたい」と書きました。それからは、サンジャナの願いを叶えることが『虹の家』の願いとなり復興への道を歩き続けるサヌタリ村の人びとへ元気になれるエールを送りたいと考えていました。

帰りのバスに乗る前、一人のお父さんから「デーレ デーレ ダンネバード。こんなことが私に起こるなんて。みなさんにお礼を言いたいです」と、心のこもった感謝の言葉をいただきました。

〈スクールプロジェクト〉

オクレニ小中高校 新しい図書室 はじめての 母親教室



10/6 校長先生の話 お母さんたち 31 名が参加



プレゼントされたスクールシャツに笑顔が

この日は、ネパール事務所・NGO-JICA ジャパンデスクのティミルシナ祐加さんが視察に来られました。はじめに、JICA 支援事業のスクールシャツを一人一人にプレゼントしました。つづいて、「ママの教室」を開催。お父さん、お母さん、おばあちゃん、おじいちゃん計 28 名が参加。校長先生からは JICA と『虹の家』から支給された教育費支援費についての説明がありました。行政の人からも地域のことと学校教育についての話があり、保護者からは今の養育状況や学校への要望等を聴くことができました。みなさんの最大の関心事は子どもの教育です。今後も母親教室を活用できるような新しい試みができればと思います。

(2) 活動の写真

サヌタリ村プロジェクト 2018 年 JICA 支援事業活動

ママと Home education



歯の模型を使っでの歯磨き指導



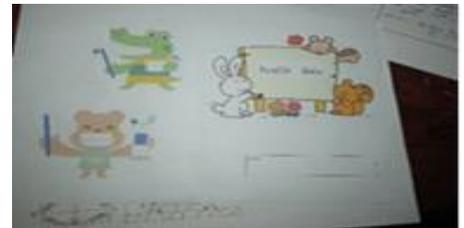
ドクターキャンプ 春の検診結果要治療者 26 名の歯科治療



簡易身長テープ



アナログの 体重計



Health date 発育測定の結果を記入

絵本とママ 「クルクル絵本」 ～ 手元に絵本を ～



クルクル絵本の説明を聞く子ども



JICA 事業 タメルの本屋さんで購入したネパール語絵本

キラン先生のコメント

土曜クラブの時に返却と貸し出しをしています。もうカードが 3 枚目を終える子もいますよ。

子ども土曜クラブ



常時活動 学校の授業の補習と英語の勉強に力を入れています

スクールプロジェクト

オクレニ小中高校

図書室づくり



JICA 支援事業より 書架 3つ 床マット ネパール語絵本を届ける 堀田香代子さんの指遊び「ピッピッピ」に声をあげて遊ぶ子どもたち



JICA 支援事業より（布地購入）
 スクールシャツをプレゼントされた子どももお母さんも嬉しそう



女性ソーイングプロジェクトから
 春 50 枚 秋 55 枚を制作し提供

教育支援

母親教室



JICA 事業教育支援費 受給家庭の保護者への説明会



中高生との交流授業

～ネパールの子どもたちのための SDGs～

スクールプロジェクト② シリバルカリヤン小学校

給食開始



給食調理は
 先生と村の女性たち



8 時に家を出た子どもたち 給食が楽しみで
 勉強に身が入るようになりました



食べた食器は自分で洗います
 歯磨きも 忘れずに

女性ソーイング

ジョルパティ 新しいトレーニング場完成 (参加者26名)



JICA 支援事業より 日本製高級ミシン1台とミシンを購入

ミシン技術



ニット技術



品質の向上が課題

研修と交流



畑中トキコさんによる パターン制作の指導



スクールシャツの検品と袋詰め

カウンターパート

NGO INTERNATIONAL SEWA SOCIETY との連携

SOCIAL WELFARE CONCIL 登録 : 4 3 3 6 9

スタッフ



代表 ビルさん



合同ミーティング

日本への活動報告



来日 報告会

11月4日 西宮市大学交流センター

後援 JICA 関西 兵庫県国際交流センター



人の主婦が日本に来れた ウマさん



良きパートナーとして ビルさん

メッセージ



地震後、みなさんがサヌタリ村に来てくれました。私たちは何をどうしていいかも分かりませんでした。

『虹の家』のみなさんが毎年来て、力をくれました。これからの未来、子どもたちと私たちのきれいな花が咲くでしょう。

ウマさんが描いた メッセージ

(3) JICA 基金活用事業を受託したことで団体の成長につながった点・良かった点

NGO ネパール『虹の家』 運営に関する

- ① 『虹の家』第IV期の年間活動計画作成に JICA 事業の支援を入れたことでカウンターパートはじめ、現地の活動組織が整備され、被災地支援活動プロジェクトを着実に推進することができた。
- ② JICA へ提出したプログラムを『虹の家』メンバーが共有し、それぞれの担当プロジェクト内容に必要なアイデアや工夫がなされた。現地支援のための国内準備（絵本のネパール語訳 ソーイングの材料集め小物袋づくりのキット）は、高校生団体他協力者を募り進めることができた。
- ③ 事業のフィードバックを行うことで現地の状況に見合った活動や次の課題も把握できるようになり、次年度（第V期）のプログラムに活用予定。

ネパール現地活動

- ① カウンターパート「International Sewa Society」組織と活動の充実
 - ・ JICA プログラムの共通理解のためのミーティングを開いた（ 5月 9月 12月 ）
 - ・ ネパール事務所・NGO-JICA ジャパンデスクで、今後のプログラムスタッフ紹介を行った。女性も含め 23人参加
 - ・ 庸人費が支給できることで活動を中心となって担う人の確保ができ、組織も充実できた。
 - ・ 国内移動費支給により支援先訪問や物品制作、購入などさまざまな作業の進捗状況が改善した。
 - ・ 経理関係について、領収書や相見積もりなど適切な会計処理の方法を習得できた。
- ② 学校の教員との連携
 - ・ JICA 事業への理解と協力を得ることができた。
 - ・ 見通しのあるスクールプロジェクトへの信頼と今後への期待感がある。
 - ・ 「学習環境づくり 学習プログラムづくり 学習教材や指導法」など要望事項が出された

日本国内活動

- ① 国際支援活動は安全を第一にする。(7月末、東京で安全対策講習会を受講)

当団体のネパール現地活動参加者は個人の範疇で行ってきた。しかし、事故や試験への対応についても NGO 団体としての安全対策をもち理解した上での自己責任の部分も含め活動に参加することに改めた。

外務省の旅レジにも登録し、治安状況の把握、緊急事態にそなえて大使館への連絡などが適切に行えるようになった。

- ② 当団体は「平成 29 年度 国際協力 NGO 等の中長期運営・組織運営」サポートプログラムを受講している。3 年間継続の予定。NGO による国際協力を行う組織としての質を高める重要性を学んでいる。

現地調査の観点、人々の願いをどう反映するか、女性トレーニング場は誰が、どのように運用するか、女性たちへの対価はどうするかなど活動での取りこぼしはないかなど専門家の助言をいただいている。

当団体の最重要は支援活動をどのように継続していくか、ネパール現地の人と中長期の計画を共有するなど国際支援活動に関わるための大事なことを学んでいる。